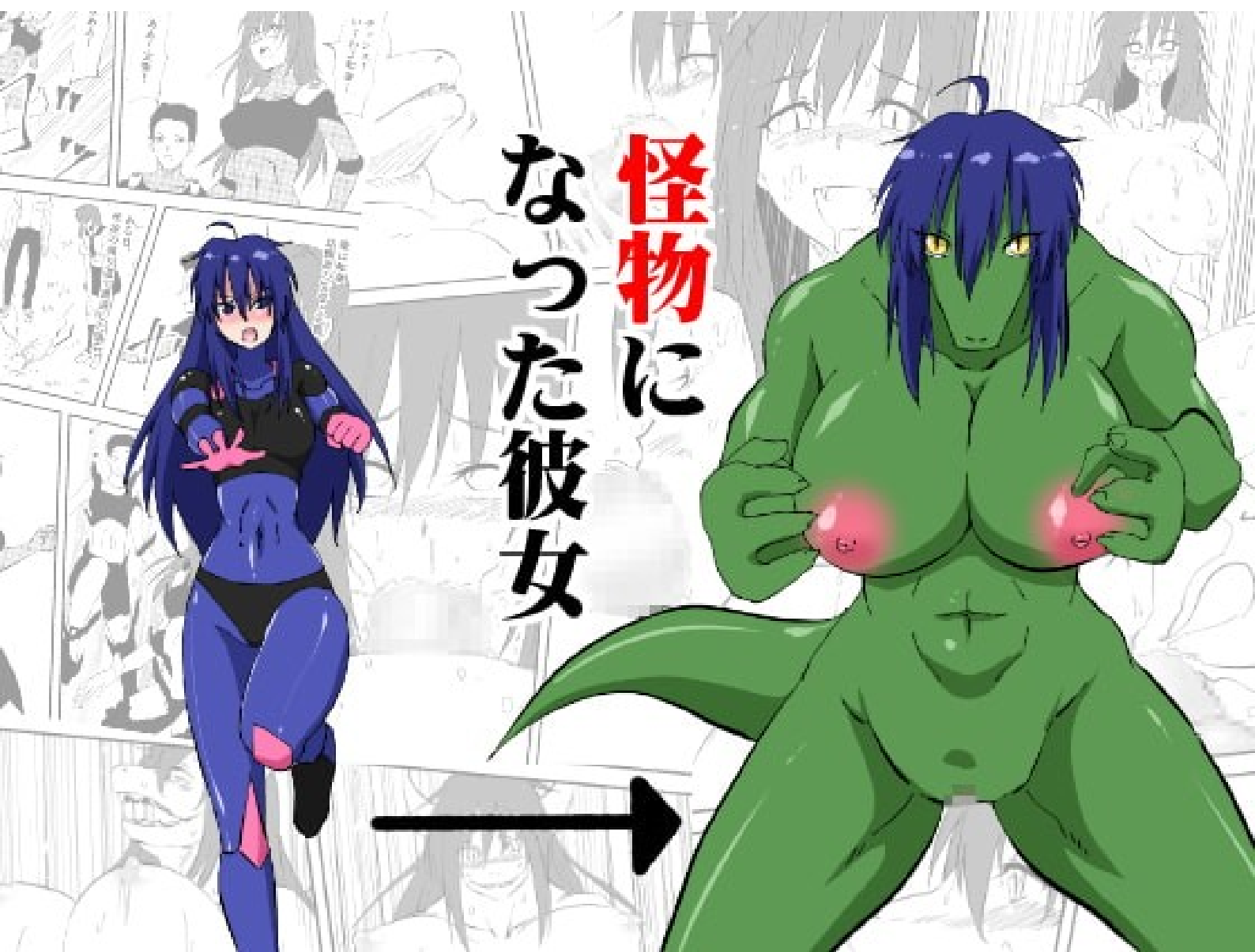
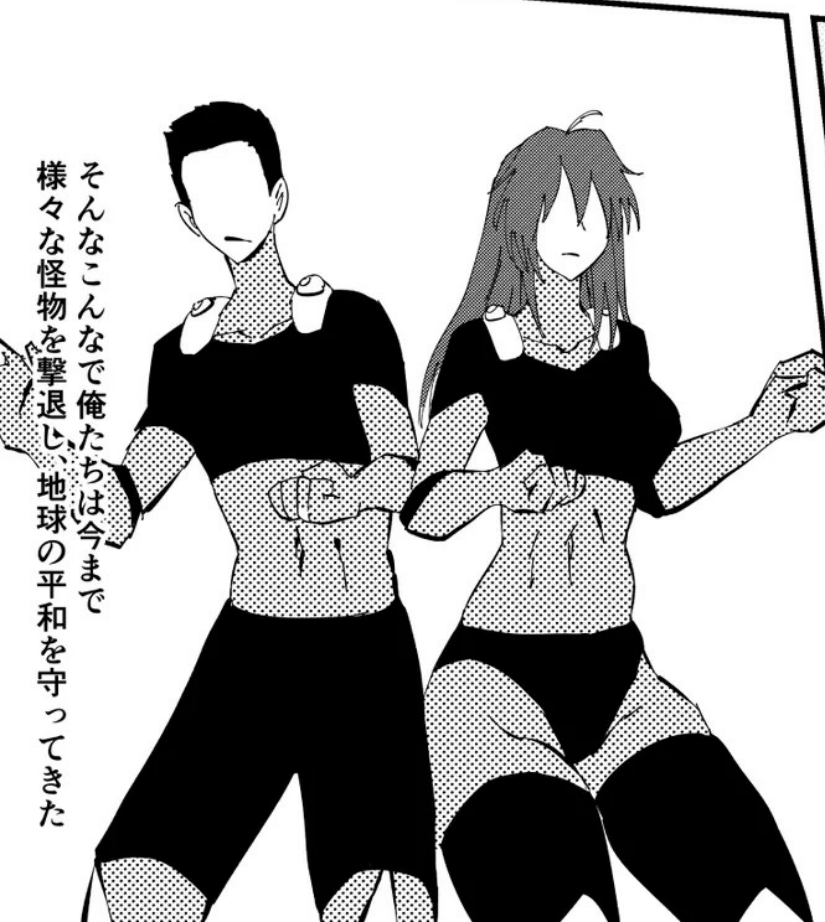
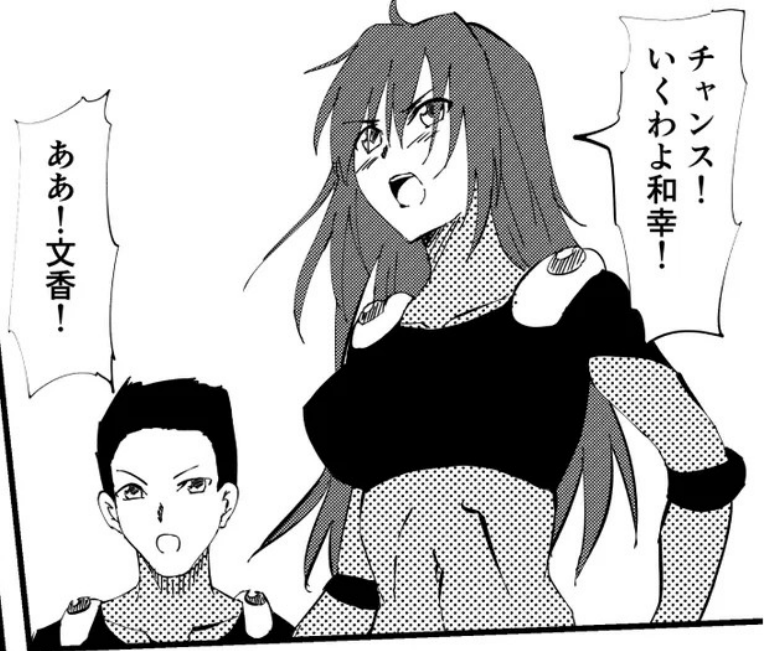


怪物に
なつた彼女











わかったわかった
しっかり治して
またあの怪物を倒しにいかなきやね

そうそう



う、うちよつとね…
体調がね…



数日後…

文香、最近あまり学校来てないけど
大丈夫？



大丈夫大丈夫
すぐ治るから



右手の傷大丈夫なの？
医者に行った方が…

ハァン

はあ

はあ…はあ…
腕が…

はあ

食べ物も見るだけで吐き気がしそう…
とても食べられる物に見えない…
でも空腹感が凄い…

私は…
どうなっちゃったの…?

身体が疼くみたい…
ああ…なにこれ…
求めている…何かを…

はっ

はっ

した

い、行かないや…!!
抑えられない…外に…外に…

ここは…廃工場…?
何かここにいる…
求めている何か…

グルルウ…

ザッ



バ
オ
オ
オ

くう…!!
ち、力が出ない!
殺される…!!



グ
ア
ア
ア
ア



き、貴様は…!!



優しく舐めている…?
な、なにこれ…

ム
シ
ヤ

ム
シ
ヤ



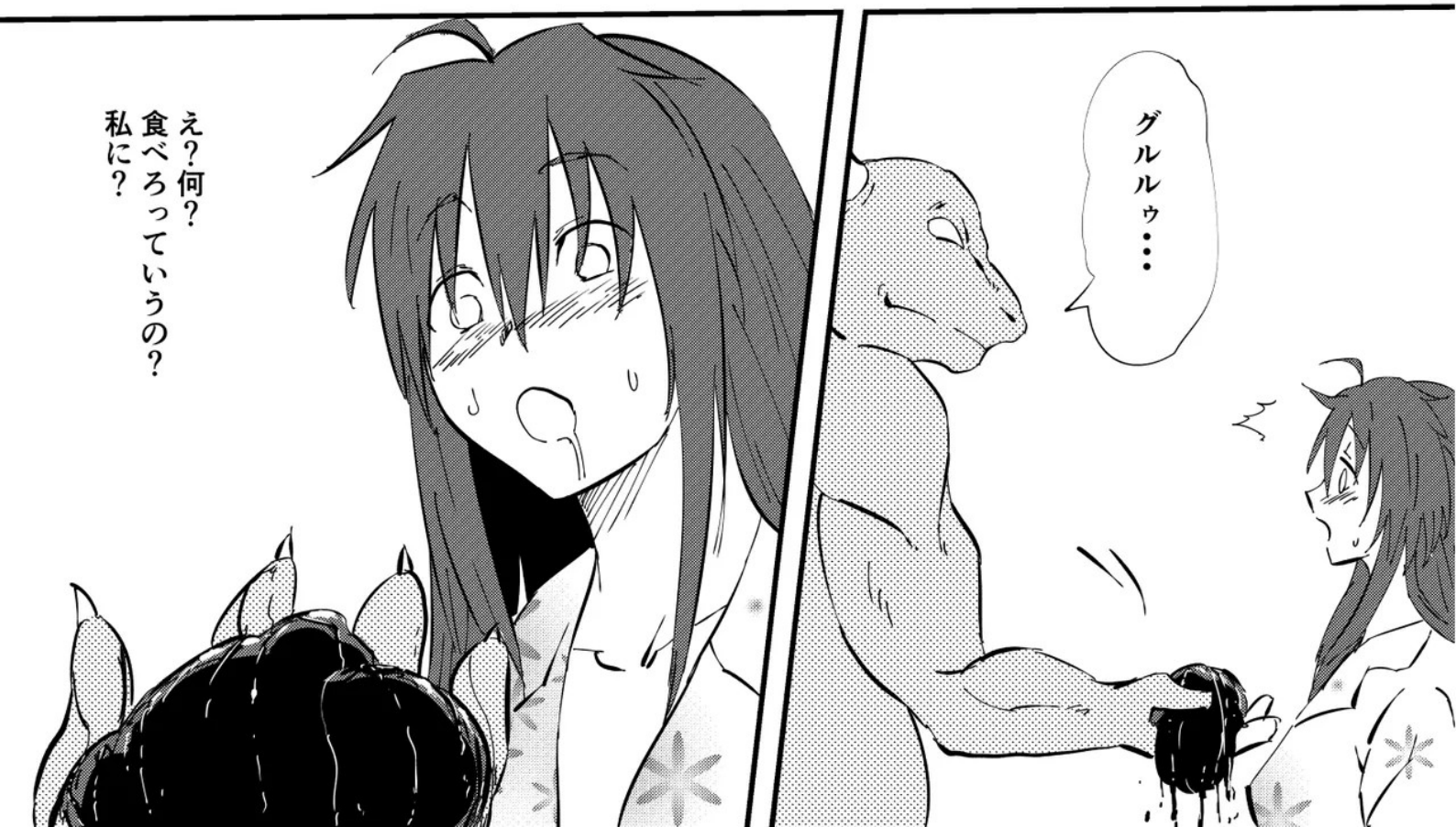
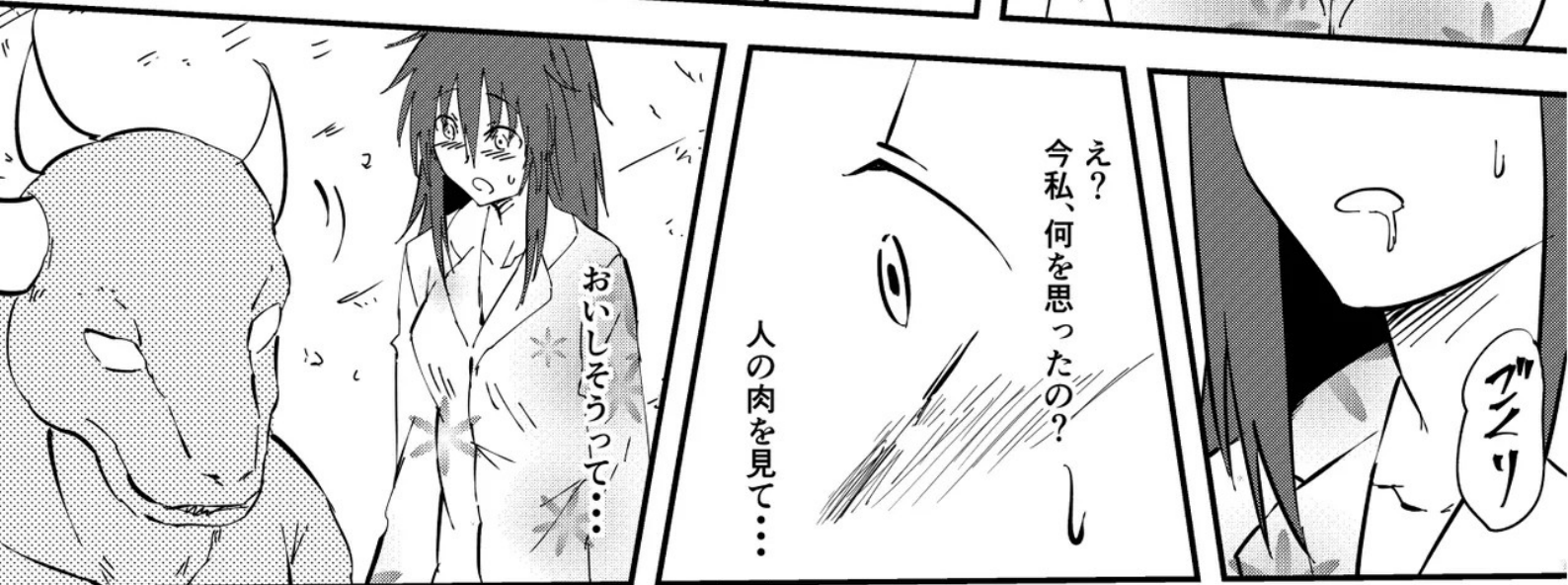
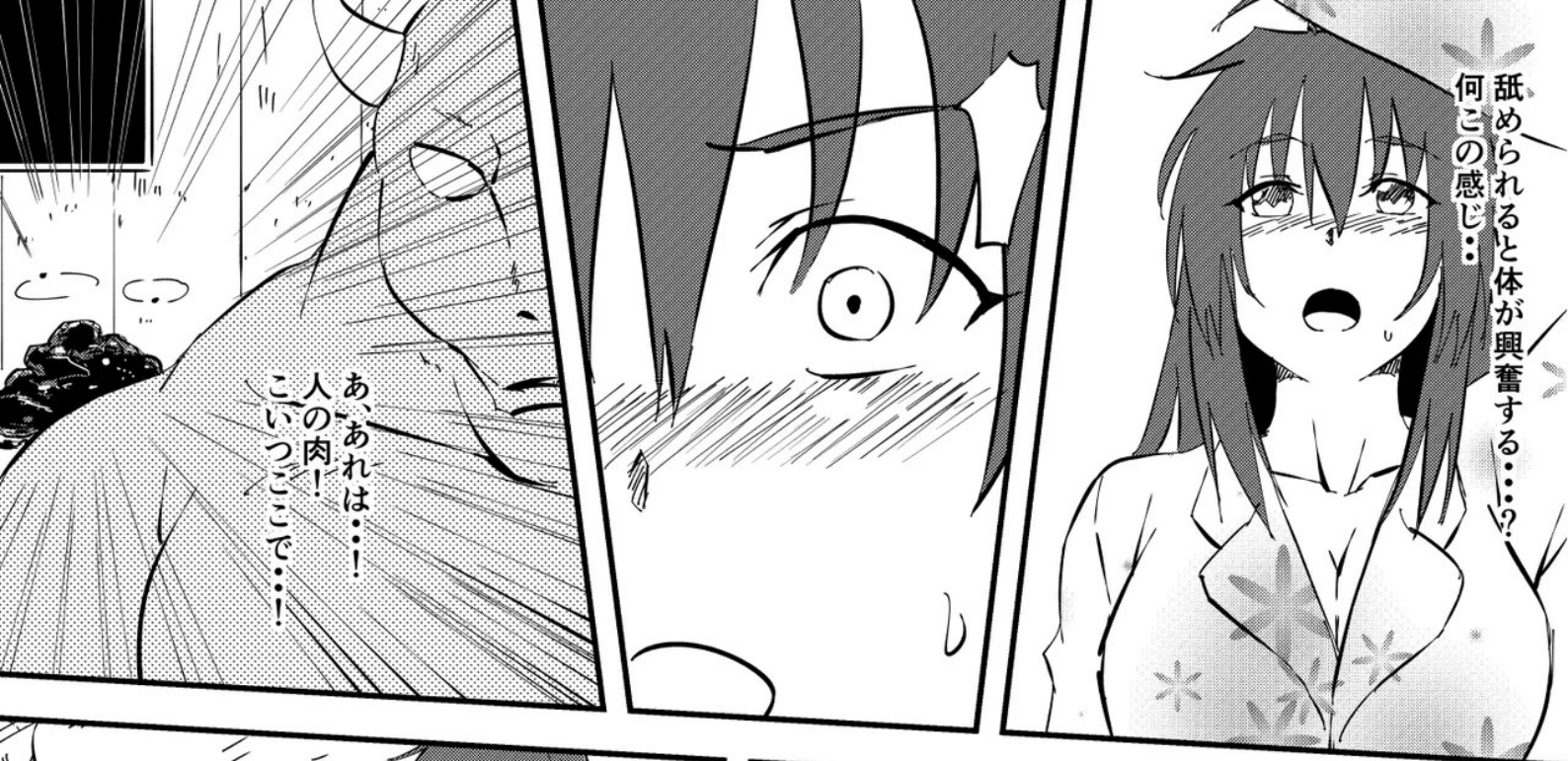
え?

ム
シ
ヤ

ム
シ
ヤ



ピ
チャ
ピ
チャ



駄目…耐えられない！

ぐちゃ

んんっ！
むしやむしや

ガツガツッ！

ぐちゃ

ぐちゃ

はあはあ…！
駄目、駄目なのにい！

ガツ

ガツ

おいしい…！
今まで食べたどんなものより！

ガツガツ

ぐちゃ

ぐちゃ

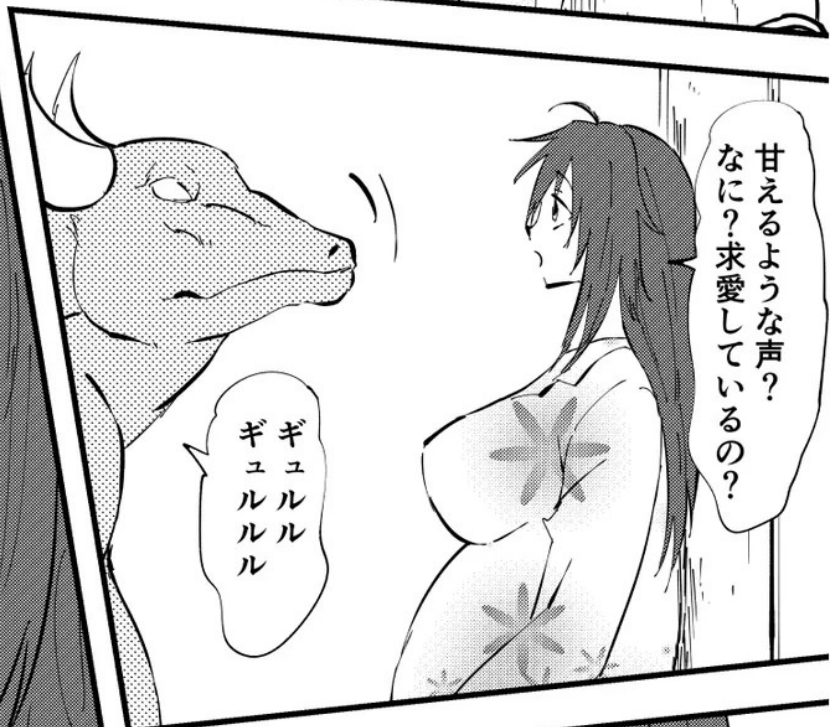
ぐちゃ

ムシャムシャ

ああ、肝臓、脾臓、大腸！おいしい！！
目玉！こりこりしてておいしい！
もっと、もっと欲しい！

ぐちゃ

ぐちゃ







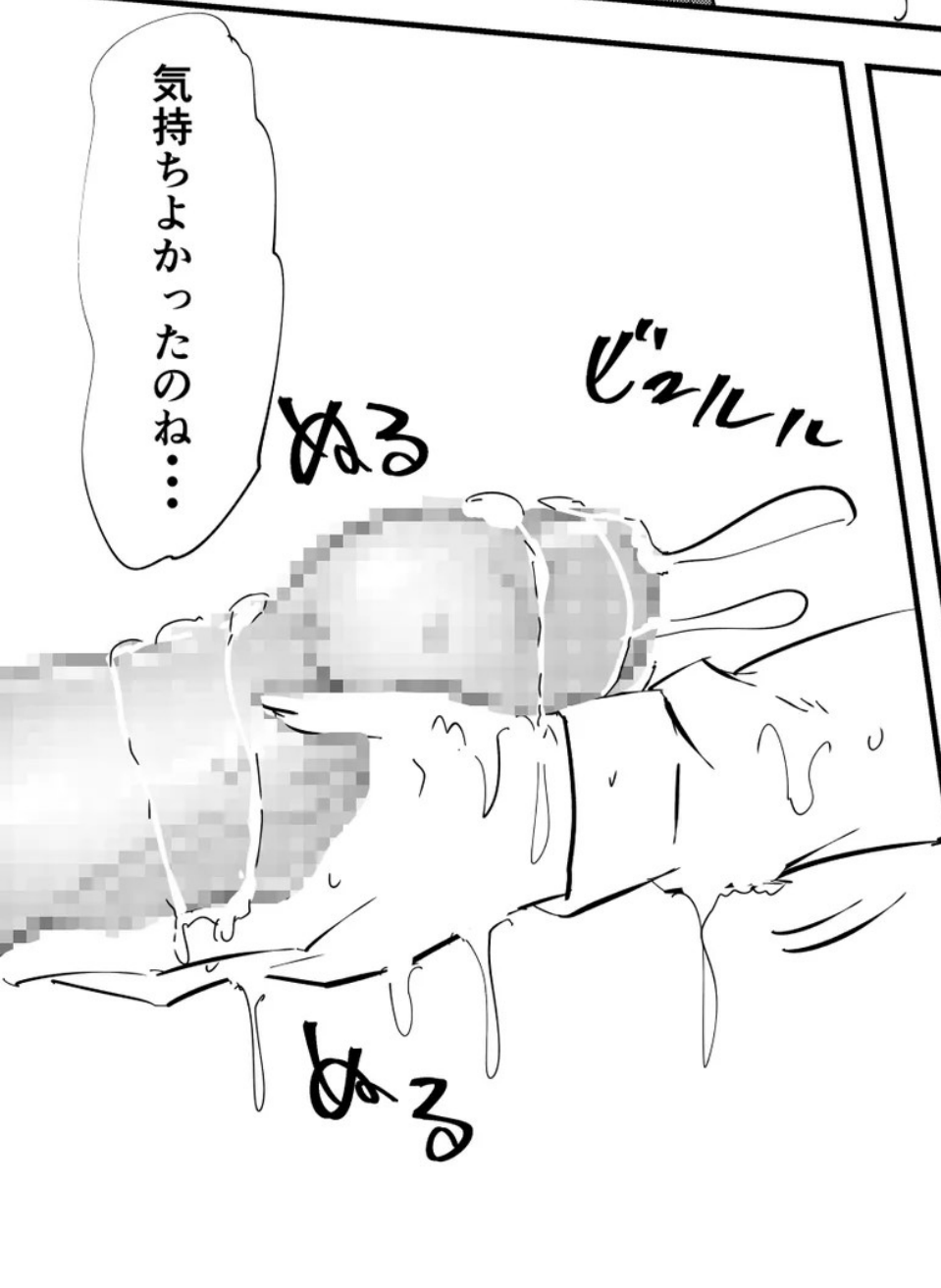


あはあ…!

い
き
る
る

い
き
る
る

い
き
る
る



気持ちよかったのね…

ぬる

い
き
る
る

ぬる



ふふっ…
こんなにいっぱい出して…

い
き
る
る

い
き
る
る



欲しい…



中に入りたいの？
私も…



あはあん！
ちんぽおっきい！

身体が熱い！
このオスのチンポを求めている



あはあん！
はあん！

もっともっと！
激しく！奥まで！！

あはあ♡

はああん♡

はああん♡

ニヨキ

はああ！♡
はがあん！♡

ぐっがあ…！！
がああん！

ㄥㄥㄥ

ㄥㄥㄥ

ㄥㄥㄥ

ㄥㄥ



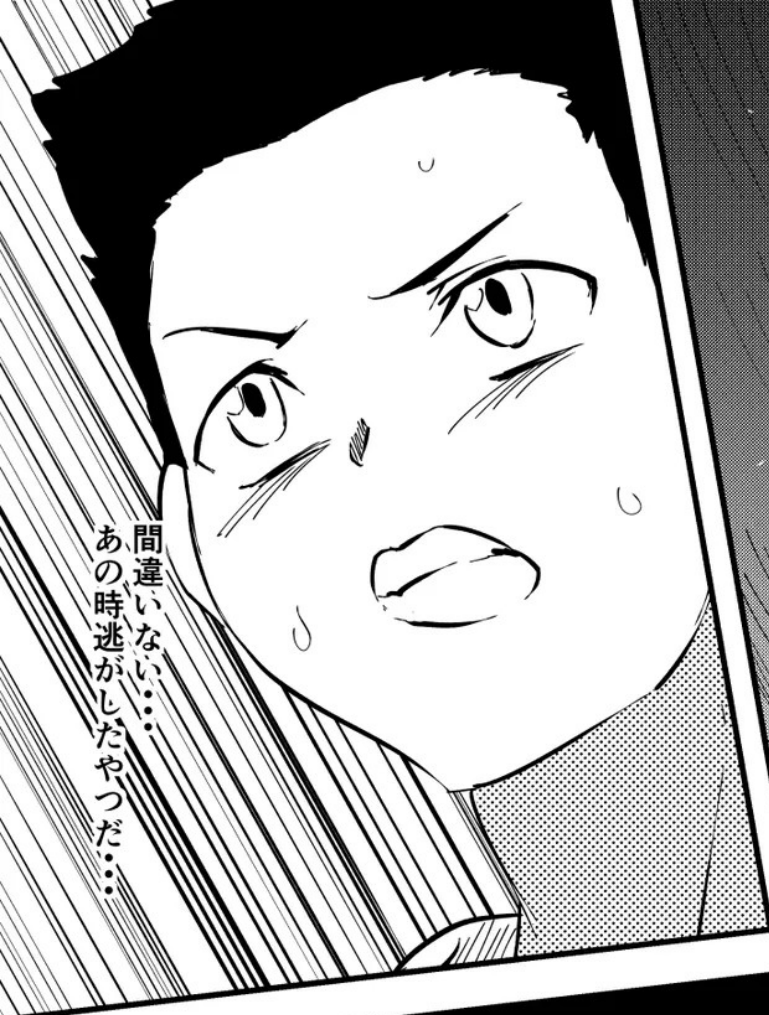
ぎゅあああ!
がああ!



身体が...!
熱い...!



カラダ...!
モットモット!



間違いない……
あの時逃がしたやつだ……

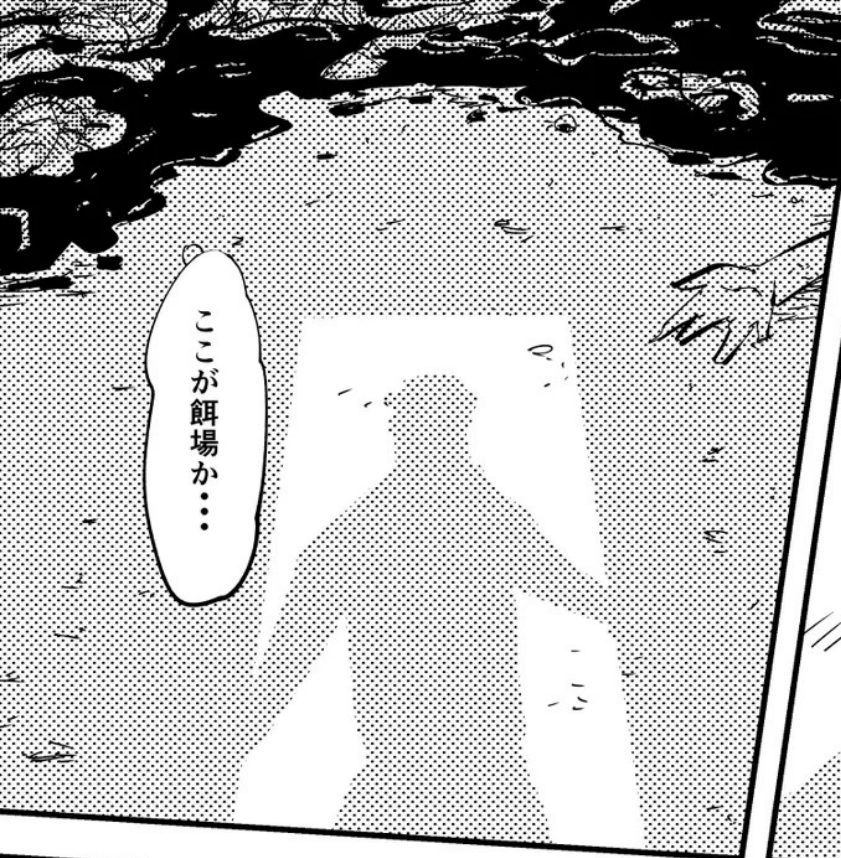
文香が失踪して1か月経った
町には行方不明者が増加し、
怪物の目撃談が増えている……



まさか文香が一人で討伐に行って
やつに……

だが、ようやく奴の住処がわかった
町の外れにある廃工場で怪物を見つけたという
少年の話を聞くことができたのだ





ここが餌場か...



とにかく俺一人でも
あの怪物を止めないと!



いた!
奴だ!



酷い...
これは全て奴の犠牲者なのか...!



ガ
ッ











怪物の子を...



嘘だろ...こんな...
文香が...犯されている...
自ら喜んで...

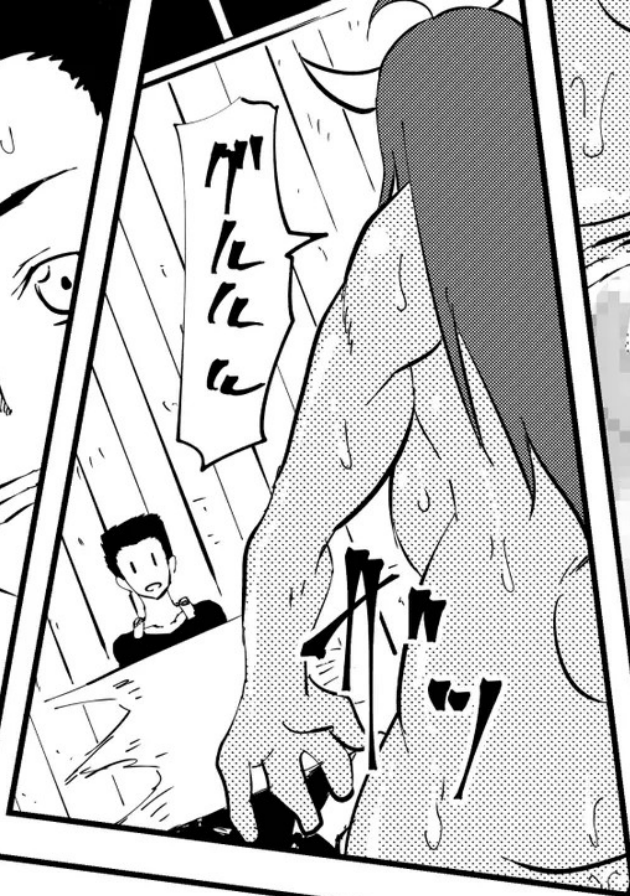




食われる…死ぬのか俺は…
文香に食われて…



セックスして、
次は再び腹ごしらえというわけか…



ガンガン

ガッ



アッ



怒り…



その怒り！そこそがキミに与えた真の力！
キミは怒りの戦士になれる！

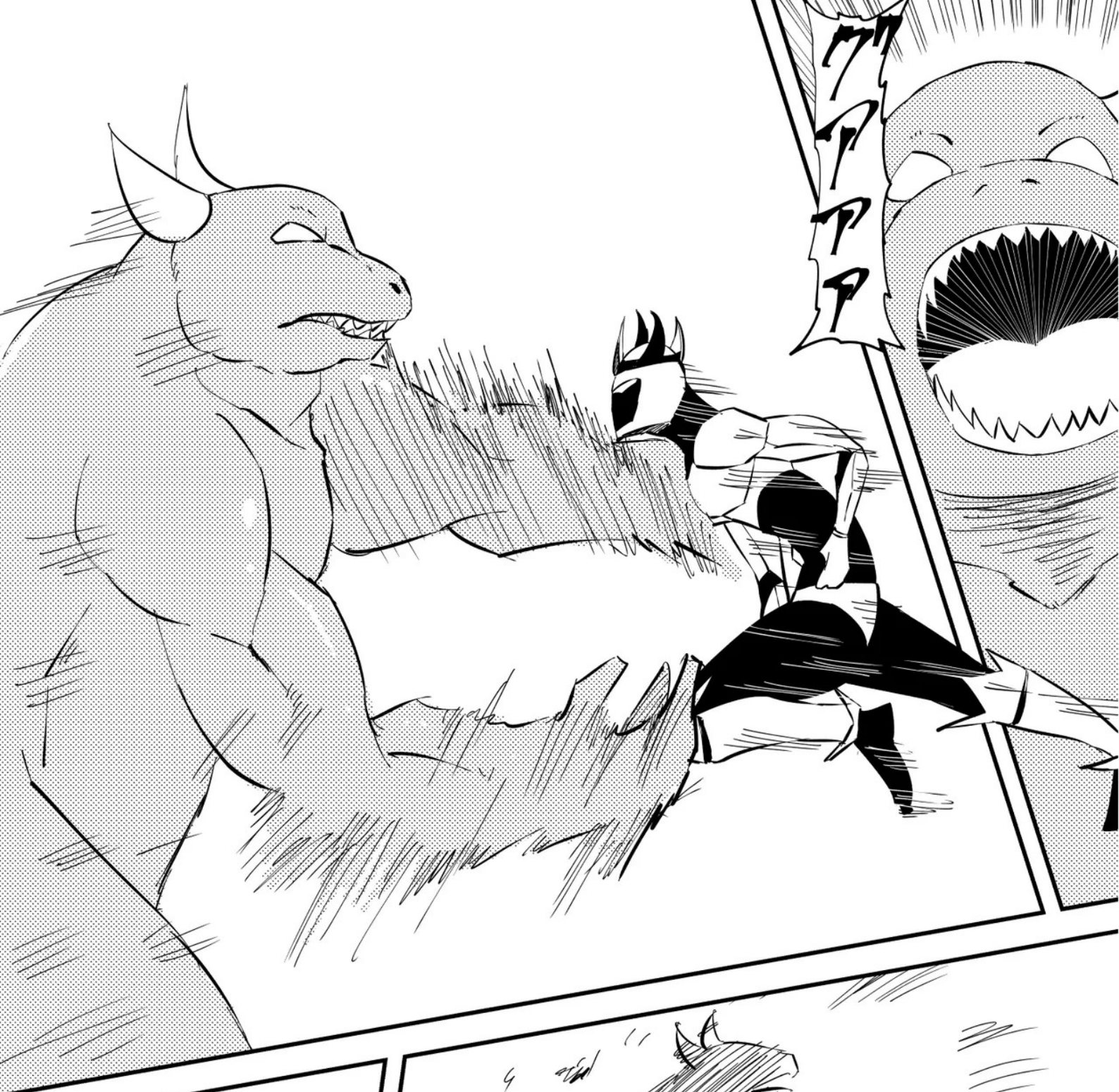


目覚める和幸！
君の真の力を解放するんだ！

憎い…憎い憎い…！
怪物め…！文香を…！俺の大切な…人を！

俺は怒りの戦士！
貴様ら怪物を殺す者だ！

オオオオオオオオ！







初めの頃はツガイを殺し卵を破壊した
俺を憎んでいたようだが
最近では俺に懐くようにもなった



結局、俺は文香を殺せなかった…
彼女を町外れの倉庫の地下に匿い
こうして食事を与え続けている



だから俺は…

ハッ

ハッ



文香はオスを求めていた
より強いオスを…より強い子孫を作る本能に従い…

そして…

ムニョ



くううう！

ググググ

お風呂♡

ああ！文香！
文香！



文香のおまんこだ！
おまんこに入れてるぞ文香！
気持ちいいか！いいのか！

お風呂♡♡

グググ

で、でる！

マ
キ
ノ
ノ
ノ

うおおおおお！

出すぞ文香！

技師

彼女をいつか元に戻す方法があるのだろうか……？
いやそんな方法はもうないのかもしれない……

はあ……はあ……

ぎゅん

ぎゅんぎゅん

それでも俺は彼女を愛し続ける
俺の大切な人だから……